

## 道博協ニュース

第 14 号

発行 昭和59年6月25日  
 発行所 北海道博物館協会(事務局)  
 札幌市白石区厚別町  
 北海道開拓記念館友の会気付  
 電 011-(898)-0456

## 第二十三回北海道

## 博物館大会せまる

第二十三回北海道博物館大会は、来る七月六日・七日の両日、釧路市において開催される。大会テーマは「北の風土にねざした館・園づくり」であり、新たに開館した釧路市立博物館の建設経過や展示構想などの具体例を素材として、講演、分科会、全体会議などが行われる。

北海道の博物館・園が「北の風土」をどう認識し創造活動を展開して行くべきかという問題は、当協会にとってもふるくて新しい課題のひとつといえよう。第二十三回大会の成果が期待される。

なお、大会の日程と内容の概略は次のとおりである。

第一日ー七月六日ー

○開会式(釧路市教育研究センター)

受付(九時ー九時三〇分)

開会宣言 釧路市教育委員会

主催者挨拶 社会教育部長 小西 恒彦

会 長 中川 敏

歓迎の辞 釧路市長 齋淵 俊之

来賓祝辞 日本博物館協会 会 長 徳川 宗敬

北海道教育委員会 教育長 中村 龍一

釧路市議会 議 長 神保 一郎

閉会宣言 釧路市教育委員会

社会教育部長 小西 恒彦

社会教育部長 小西 恒彦

○講演(釧路市教育研究センター)  
 演 題「街づくりからみた博物館」  
 釧路市長 齋淵 俊之

○特別報告(釧路市教育研究センター)  
 テーマ「わが国の博物館の現況と課題」  
 日本博物館協会 専務理事 毛利 正夫

○分科会(一三時ー一五時)  
 ー第一分科会ー(釧路市立博物館)  
 テーマ「個性のある館・園づくりをどう進めたらよいかー管理運営の立場からー」

助言者 北海道教育大学 教授 岡崎 由夫

司会者 網走市立郷土博物館 特別学芸員 米村 哲英

発表者 釧路市立博物館 館 長 澤 四郎

ー第二分科会ー(釧路市教育研究センター)  
 テーマ「個性のある館・園づくりをどう進めたらよいかー学芸的活動の立場からー」

助言者 北海道新聞社学芸部 次長 稲葉 吉正

司会者 釧路市立博物館 学芸員 西 幸隆

発表者 釧路市立博物館 学芸員 新庄 久志

社会教育部長 小西 恒彦

○全体会議（釧路市立博物館）

議長 釧路市立博物館

館長 澤 四郎

白老町教育委員会

教育長 藤島 勝美

第二日ー七月七日ー

○総会（釧路市教育研究センター）

（九時ー一〇時三〇分）

○施設見学

（一〇時三〇分ー十四時三〇分）

主な見学施設

太平洋炭礦炭鉱資料館

鳥取百年記念館

釧路湿原展望台

釧路市動物園

釧路市丹頂鶴自然公園

○閉会式

最終施設の見学後実施予定

△交通案内▽

札幌方面から釧路へ

国 鉄

札幌発 釧路着

一〇・〇三ー一五・〇四

（おぞら三号）

一二・一五ー二〇・〇九

（狩勝三号）

一三・四五ー一八・四八

（おぞら五号）

一七・〇三ー二一・五七

（おぞら七号）

航空機（東亜国内）

札幌（千歳）発 釧路着

一〇・五五ー一一・三五

一三・三〇ー一四・一〇

一五・〇五ー一五・四五

一六・二〇ー一七・〇〇

釧路から札幌方面へ

国 鉄

釧路発 札幌着

一一・一〇ー一六・一四

（おぞら四号）

一四・一四ー一九・一七

（おぞら六号）

一五・三〇ー二一・五四

（狩勝四号）

一六・五〇ー二一・四九

（おぞら八号）

航空機（東亜国内）

釧路発 札幌（千歳）着

一二・一〇ー一二・五五

一四・四五ー一五・三〇

一六・二〇ー一七・〇五

一八・三〇ー一九・一五

大会事務局から

博物館大会に参加される皆様に次の連絡をいたします。

開会式は

教育研究センターで

開会式などの会場となる釧路市教育研究センター（釧路市千歳町三番六号、電四二―三三一―番）は、博物館の南西部五〇〇メートルの位置にあります。主要道路の入口に案内板が出ていますが、地図などであらかじめ確かめておいて下さい。釧路市内案内図は、大会開催要領と一緒に送付してあります。

駐車場あり

会場となる教育研究センター、および博物館ともに三〇台程度収容可能な駐車場があります。御利用ください。

懇親会へどうぞ

大会第一日目の午後六時から、釧路市商工会館（釧路市大川町二、―会場から徒歩一五分、幣舞公園そば）において、恒例の懇親会を行います。会費（四〇〇〇円）は、第一日目の朝の受付にて徴収いたします。多数御参加ください。

魚類化石の紹介

左の写真は、アスピドールホィンクス（学名）という魚類の化石二点です。産地はブラジルで、一九七六年に発見されました。大きさは小形の方が長さ二十九センチ、大形の方は五十三センチです。

地質時代の中生代の化石と

思われますが、きわめて貴重な資料です。所有者は、博物館で必要ならば……と話しておられます。詳細は道博協事務局へどうぞ。

事務局へどうぞ。

